

会 議 等 結 果 報 告 書			
会議区分	会議 ・打合せ・協議	文書番号	上富子育第 8 8 0 号
		決裁期日	令和 6 年 1 1 月 2 2 日
名 称	令和 6 年度 第 3 回子ども・子育て会議		
日 時	令和 6 年 1 1 月 1 1 日（月） 10：00～11：20		
場 所	こどもセンター会議室		
出 席 者	子ども・子育て会議委員 13 名（別紙名簿参照） 役場 保健福祉課 三好課長、菊池主幹、武山主幹、末永主幹、白井主査、坂本主査、 後藤主査、木澤主事		
内 容	・開会（進行：三好課長） 1 委員長挨拶 ・松原委員長（北海道科学大学保健医療学部看護学科教授）より挨拶。 検討委員会から、新こどもセンターに関わっていましたが、駐車場も整備され、新こどもセンターが、上富良野のこどもたちがいきいきのびのびと育つ環境になるといいなと思います。 2 議題 （1）こども計画の素案について…【資料 1】（事務局説明） 事務局：資料 1 について、前回会議より修正した点について説明（青いマーカー部分）主に「こども」をひらがな表記に修正。法律に基づき「子ども」表記のままのものもある。 第 4 章 計画の基本的事項（15 ページ～）の量の見込みの算出方法は、国の示す算出方法と、過去 5 年間の実績を踏まえて作成している。 【質疑・応答 意見等】 ・広瀬委員：22 ページの（7）地域子育て支援拠点事業の見込み量について、令和 9 年度までは増加し、その後減少しているのはなぜか。 ・事務局：子どもの数の将来推計では、令和 9 年度の 0～2 歳児の人口が最も多くなっている。令和 8 年から令和 9 年は 5 名増えてピークになる。その後、子どもの数が減っていくので令和 10 年度以降の見込み量が減少している。 ・豊田副委員長：24 ページの（13）児童育成支援拠点事業について。本町は令和 5 年から教育支援センターを設置し、不登校児への支援を行っている。先日、こども家庭庁から不登校児への支援を手厚くするという記事を見た。この話は、市町村まで下りてきているのか。 (次ページへ続く)		

内 容

- ・事務局：こども家庭センターの設置については現在協議中だが、こういった組織になるのかの話までは行きついていない。教育委員会や学校との関係については、まだ具体的にはなっていないが、教育支援センターとの連携を行っており、その取り組みを引き継いでいくことになるのではないかと。こども家庭センターの設置は令和7年度となっているが、保健師の配置や役場の保健福祉部門の相談体制などをどうするか検討中。すでに取り組んでいる自治体の視察など、準備は進めている。
- ・松原委員長：28ページの資料の中に「かみふっ子健診」とあるが、これは子ども計画の中に位置づけられている取組なのか。
- ・事務局：「かみふっ子健診」というのは法的義務のある健診ではなく、上富良野町の健康増進計画の中で、生活習慣病の予防策として実施している。
- ・松原委員長：小中学校で通常行う健診とは別に保健部門で行う健診というのは、他の自治体ではあまり聞いたことがない。
- ・事務局：平成23年と24年に試験的に実施し、平成25年から本格的に実施している。上富良野町民は当たり前になっているが、他の町から引っ越してきた人からは「何ですか？」と問い合わせがある。

【子育てについて普段感じていること】

- ・加藤委員：町からの支援でゴミ袋は非常に助かった。買うと高い。必ず使うものなので、有難く感じた。
- ・瀬下委員：出産のタイミングで上富良野町に転居してきた。町で実施しているマタニティ交流会で他のお母さんと友達になって、色々な取組に参加するようになった。マタニティ交流会が再開されるようになったが、その周知が広まっていないように感じる。孤独を感じている妊婦さんのために何かできることはないか。
- ・事務局：マタニティ交流会の周知は、母子手帳を交付する際や、20週・30週の時に渡すチラシ、「すくらむかみふ」で周知している。渡す書類が多いので、妊婦さんも何を見たらよいのかわからないかもしれない。引き続き周知を進めたい。
- ・松原委員長：妊婦さんが通う病院等で、マタニティ交流会の周知を行っているのか。
- ・事務局：病院で周知は行っていない。病院で周知を行っているのは、町が実施している産後ケアについて。
- ・広瀬委員：ファミサポセンターで不登校児への支援も行っている。こどもの貧困と聞くと、経済的な貧困というイメージが強いが、実際には親子関係や社会との関わりに問題を抱えている家庭が多い。そうした課題を抱えている家庭を取りこぼさずに、支えていける仕組みがあると良い。
- ・藤澤委員：息子の嫁が臨月を迎えているが、子育ての情報をどこで聞いたら良いのかわからないと言っている。上富良野町のどこで聞いたらわかるのか、どんな情報発信が必要。
- ・瀬下委員：自分の時は、マタニティ交流会でオムツ交換の仕方などの情報を得た。
- ・事務局：上富良野町では、妊娠時に母子手帳を渡す段階で、保健師や助産師が対応し情報提供を行っている。今のところ、情報提供が足りないという意見は少ない。

(次ページへ続く)

内 容

- ・村上委員：不登校の子どもにとって何が最適な支援なのか。この計画の対象年齢の時期で終わるわけではない。そこから大人になって自立した生活をするようになる、スタートラインに立つことができるようになる計画であって欲しい。
- ・平山委員：自分は話すことでストレスを発散する人間なので、マタニティ交流会の場は、話すことができ、それに対するアドバイスをもらうことができたので、非常にありがたかった。
- ・増田委員：我々としては人手不足が最大の課題。保育の無償化以降、預かり保育を含めて利用が増えている。2号・3号の就園率が上がって、逆に1号は低下。長時間の利用が増えた。先生の仕事量が増加した一方で、子どもたちが園にいる間はできない仕事もあり、家に持ち帰って仕事をする場面も出てくる。働き方改革の動きや、職員の資質の向上への対応などもあり、働き方のバランスを取るのが非常に難しい。今後、誰でも通園制度が全国展開されるとより一層難しくなる。
- ・広瀬委員：ファミリーサポートセンターの利用量が増える見込みだが、子ども預かる会員の確保が課題になっている。保育の質の向上を図りながら、会員の負担感を感じさせずにどうやって事業を進めていくか模索している。サポーターを確保するのにどうしたら良いか、子育てが終わった家庭への情報周知をどうするか、知恵をお借りしたい。

(2) パブリックコメントの実施について

- ・パブリックコメントの時期は、令和6年12月10日から令和7年1月9日まで。上富良野町ホームページに掲載する。周知方法は、広報12月10日号で行う。
- ・パブリックコメントの中に計画の内容に影響があるものがあつた場合は、2月に開催する第4回子育て会議で審議し、3月に開催する第5回会議で計画を決定する。特に意見がなかった場合は、2月に開催する第4回子育て会議で計画を決定する。

(3) その他

- ・今日の素案を見ていただいて、修正点や意見があつた場合、パブリックコメントまでにいただければ計画に反映することは可能。軽微な修正であれば、委員の皆さんに書面通知でも可能。ご意見があれば、早めをお願いしたい。
- ・次回の子育て会議は、2月開催の予定。

閉会